



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年7月25日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



シドニー五輪競泳女子「銀」 田島寧子さんの現在地

25日(日) = 1、3面

迫る

2000年シドニー五輪の競泳女子400m個人メドレーで、田島寧子さん＝写真＝は銀メダルに輝きました。当時19歳で、レース後のインタビューでは「めっちゃ悔し〜い」と答えたシーンを今でも覚えて

いる人は多いのではないのでしょうか。

明るいキャラクターは周囲をも笑顔にしましたが、本人は環境の変化に苦しんでいました。五輪後の田島さんの素顔に迫ります。

特集 ワイド

「五輪の夏考」スタート

26日(月) = 夕刊特集ワイド

コロナ禍の東京オリンピックに対し、物申したい人、思いを寄せる人、前回の1964年大会の関係者らと一緒に記者が考えるコラム「五輪の夏考」がスタートします。

第1回は、エッセイストの坂崎重盛さん(78)

＝写真＝と記者の2人が緊急事態宣言下の東京・浅草を歩き、意気投合するというストーリーです。

坂崎さんは「さんざんな五輪になったけど、今回で近代五輪とはサヨナラできればいい」などと話してくれました。



津久井やまゆり園に設けられた「鎮魂のモニュメント」



相模原殺傷事件から5年

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」の利用者ら45人が殺傷された事件は、26日で5年となります。事件の公判は既に終了し、園舎も再建されて20日には追悼式が開かれま

26日(月) 社会面

移っていた利用者らの受け入れも8月から始まります。犠牲者の遺族や負傷者らを訪ねて話を聞き、この5年の年月はどんなものだったのかを振り返っていきます。

ウーバー配達員が見た「焼け野原」の東京

31日(土) = くらしナビ面

新型コロナウイルス禍で収入がゼロになった山梨県の28歳男性＝写真＝は「出稼ぎ」を決意。昨年4～5月、緊急事態宣言下の東京で料理宅配サービス「ウーバーイーツ」の配達員として働き、そ

の様子を自ら撮影してドキュメンタリー映画にまとめました。「東京は焼け野原だ」と感じたという男性が、疾走した自転車から見た景色はどんなものだったのでしょうか。詳しく聞きました。



竹橋の窓辺から

編集後記



AIスピーカーを買いました。じゃんけんができたし、話しかけると言葉が返してくれたり、家族が増えたような気持ち。「おはよう」と声を掛けると、毎日新聞から厳選した「今日のニュース」も教えてくれるので、気づけば、毎朝身支度しながら聞き、朝食後は朝刊で詳細を読むという習慣ができました。新聞が「読む」だけでなく「聞く」もできる時代が進歩したんだなあと思える今日このごろです。(川口真由)

新毎日

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年